

【意識啓発・行動変容専門部会】会議概要

会 議 名	令和7年度第2回意識啓発・行動変容専門部会				
事 務 局	環境政策課長（ごみ減量推進課長兼務）・吉尾 文彦、 生活環境保全課長・山岸 覚、足立清掃事務所長・早川 亮				
開催年月日	令和7年11月28日（金）				
開催時間	13時30分から15時30分まで				
開催場所	足立区役所13階大会議室B				
出席者	田中 充	水川 薫子	岡安 たかし	土屋 のりこ	※石田 好広
※：オンライン参加					
欠席者	田中 功一		中村 重男		高橋 杏奈
会議次第	別紙のとおり				
資 料	・足立区環境審議会【第2回意識啓発・行動変容専門部会】資料				
そ の 他					

**(吉尾文彦 環境政策課長)**

環境政策課長の吉尾です。よろしくお願いいたします。専門部会開会に先立ち、事務局からお知らせがございます。会議の運営は会場とオンラインを併用しますので、ご発言の際はゆっくり、はっきりを意識していただきますようお願いいたします。

また会議録には、出席委員名、発言者、発言内容を掲載し、公開することを報告いたします。

それでは、田中会長、進行をよろしくお願いいたします。

**(田中充 会長)**

ただいまより第2回意識啓発・行動変容専門部会を開会いたします。

11月も末となり、来週からは12月に入ります。お忙しい時期かと思いますが、委員の皆様、事務局の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

環境問題については、先日、気候変動・温暖化問題に関する国際会議であるCOP30が開催されました。また、国内ではクマによる被害が各地で報道されるなど、温暖化が生態系へ影響を及ぼし、社会や私たちの安心・安全にも関わっていることが改めて示されています。こうした状況を踏まえ、一人ひとりの行動の重要性が増しています。今日は、区の環境行政における意識啓発や行動変容のあり方について、ご審議をお願いいたします。

それでは、本題に入ります。まず、議事録署名人として、出席委員の中から土屋委員をお願いしたいと思います。

続いて、本専門部会の公開・非公開については、区の「足立区審議会等の設置及び運営に関する指針」に基づき、個人情報など公にすることが不適当な事項を除き、原則公開とさせていただきます。本日の議題には非公開とすべき内容はございませんので、公開で進めたいと思います。よろしいでしょうか。

特にご意見はないようですので、本専門部会は公開で進めさせていただきます。

それでは、配付資料の確認をお願いいたします。

**(吉尾文彦 環境政策課長)**

事務局から配付資料について説明いたします。事前にお送りした資料は、本日の次第、裏面に部会委員名簿が記載されています。次に「第2回意識啓発・行動変容専門部会資料」、報告事項として「第三次足立区環境基本計画改定版指標の進捗状況について」、報告事項別添として「成果指標・活動指標の実績と推移」です。よろしいでしょうか。

本日の進め方は、審議会同様、資料に沿って事務局から概要説明を行った後、意見交換をしていただきます。ご意見・ご質問は、オンライン参加の石田委員は挙手のボタンか画面に向かっての挙手、会場の方は挙手をお願いいたします。会長の指名によりご発言をお願いいたします。会長の進行のもと、事務局からの回答や、他の委員との意見交換を通じて会議を進めます。

今回、報告事項として現行の環境基本計画の指標の進捗状況に関する資料

を事前に配布しています。環境意識や学習、行動など、今回の審議に関連の深い指標もごございますので、審議事項の中で併せて意見交換を行いたいと考えております。

また、オンラインで参加いただいている専門家委員の石田委員は、大学の授業のため、午後2時55分ごろに退席される予定です。あらかじめご了承ください。事務局からは以上です。

**(田中充 会長)**

よろしいでしょうか。本日の趣旨は、前回の部会の検討内容を踏まえ、さらに掘り下げた意見交換を行うことです。横長のA3の折り込み資料が今日のメイン資料であり、これを一括して事務局から説明していただきます。また、報告事項として、区の第三次環境基本計画改定版の指標の進捗状況のうち、関連する項目を中心にピックアップしてご紹介いただきます。

まず、資料のご説明を頂いた後、順番に意見交換を行います。それでは、よろしく願いいたします。

**(吉尾文彦 環境政策課長)**

事務局です。横長のA3の資料をご覧ください。資料は、前回、9月の専門部会の意見の取りまとめ事項を左側、「意見等」を真ん中に、そして第1回部会での議論を踏まえた方向性と第2回部会での検討事項を右側のスペースに記載しています。

まず項番1、「すべての年代の意識啓発・行動変容」のうち、(1)「環境への取り組みにより+αの効果を感じてもら

う仕組み」についてです。

今回は、何らかのインセンティブが有効で、その理念と経済、両面からのアプローチによる普及、例えばポイント付与、商品券、図書券の配布なども重要なのではないかという意見がありました。一方で、経済的な利益だけに焦点が当たるような打ち出し方とならないような工夫が必要というご意見や、ごみ拾い大会のような楽しみながら参加する企画に少しのインセンティブを加えるのが効果的ではないかというご意見もいただきました。

これらの議論を踏まえ、右側の「方向性及び第2回部会での検討点」では、環境活動には手間がかかり、多様な価値観がある中で、区民の行動変容を促すには様々な考え方を組み合わせる必要があるという考えです。1つ目は、「環境以外の効果を併せて感じられるような施策」として「インセンティブによる誘導」、「行動のきっかけづくり」です。2つ目は、「手間をかけてでも、取組む意義や効果を理解してもらう工夫と発信」として、「見える化」と「自分ごと化」です。そして3つ目が、「課題と対策の共有など、取組みを継続できる仕組みの構築」です。例としては、「プラスチック分別回収モデル地区での声を区内全域展開」することです。

2ページ目の(2)、「これまで環境への意識が低かった層を巻き込む仕組み」についてです。これまでの議論では、「青空市のように、リユース・リサイクルを目的とした若者が集まれる場をつ

くってはどうか」といったご意見をいただきました。また、「過去の環境フェアの企画」に関しては、「苗を配布し、育てた植物を数年後に持ち寄る企画」や、「子どもたちの環境学習の発表の場を設ける」といった提案が出されています。

これらを踏まえ、今後の方向性として啓発事業では、SNSの活用を含めた「①環境問題の現状への正しい理解」、「②環境問題を『自分ごと』として捉え、行動してもらおう啓発」、そして外国人のごみの出し方の問題といった「③多様性への対応」を挙げています。

また、2-2の「イベントの実施」では、「①環境活動を積極的に行う人、団体の発信、活躍の場」として、若者によるリユースイベントや環境学習の機会を設けること、「②環境問題への意識が低い人を巻き込む場・催し」として、ご意見でいただいた企画を区のイベントで行うこと、「③イベントを活用した自然・生物の学び」も重要だとまとめています。

3ページ目、「(3)『やってみたい』環境活動を実現できる仕組み」についてです。いただいた意見は、環境基金の活用推進、環境マイスターが活躍できる場の創出、地域コミュニティリーダーへの啓発、区内大学との連携なども重要というものでした。これを踏まえ、右側の「『やってみたい』の支援」として、「自ら考え、行動する環境活動を支援する」ということで、「①環境基金」、「②環境マイスター」と、「③区民の新

たなチャレンジへのサポート」という3つを論点としています。

4ページ目からは、「子ども・若者の意識啓発」に移ります。「(1)若者に届く情報発信」について、短時間の動画による発信が有効ではないか、若者から若者へ発信するための起点となる若者の確保、その中で、例えば入試に有利になるような仕組みが必要ではないか、という意見をいただきました。

「(2)体験の機会を創造する仕組み」については、若者がリユース・リサイクルのために集まり活動できる場となるイベントの実施や、学びが受け身でなく行動につながりやすくなるよう、高学年の子どもから低学年の子どもへ環境学習を実施してはどうかという意見をいただきました。これらを踏まえ、右側の方向性として、「1 若者に届く情報発信」では、「ショート動画による発信」、「若者自身が発信者となる情報発信の仕組みの検討」を挙げています。

「2 体験の機会を創造」では、「①自然体験の機会」、「②体験と学びを組み合わせた事業」、「③イベントを体験の場に」することなどを検討します。

続いて、5ページをご覧ください。

「(3)楽しみながら環境を学ぶ仕組み」と「(4)家庭で共有、習慣化できる仕組み」についてもご意見をいただきました。これを踏まえ、右側の方向性として、「3 楽しみながら環境を学ぶ仕組みの構築」では、「①競技形式で意欲を引き出す」、「②自然体験やワークショップ等を組み合わせた参加型事業」、

「③学校との連携による環境学習」、  
「④興味を惹く工夫」、例えば、タブレットの活用です。「4 家庭で共有、習慣化する環境活動」として、親子で参加できる催しなどなどを挙げました。

この資料に関連し、報告事項の資料をご覧ください。現在の環境基本計画の指標の進捗状況について報告します。1 ページ目は CO<sub>2</sub> の専門部会に関連するところのため省略し、2 ページ目の「(4) ごみがなく地域がきれいになったと感じる区民の割合」をご覧ください。目標 50.0% に対し、実績はやや右肩上がりで推移し、目標を超えています。

3 ページ目の「(5) 自然環境を大切にすることを心がけている区民の割合」は、目標 40.0% に対し、低迷しています。

「(6) 日頃から環境への影響を考えて具体的に行動していると答えた区民の割合」は、目標 80.0% に対し、こちらも少し低迷している状況です。

4 ページ目からは、全ての指標を掲載していますので参考にご覧いただければと思います。また、別添資料には細かな指標もごございますので、併せて議論の参考にしていただければと思います。私からの説明は以上です。

#### **(田中充 会長)**

ありがとうございました。メインの A3 資料は、前回の第 1 回専門部会で議論いただいた内容を「意見等」として記載し、右側の「方向性」の枠に今日意見交換したい論点として整理されています。

まず、1 の「すべての世代の意識啓

発・行動変容」について意見交換を行います。1 ページから 3 ページについて、ご質問、疑問、あるいはこうした方がいいのではないかというご意見など、どこからでも結構ですので、どうぞお願いします。石田先生いかがでしょうか。

#### **(石田好広 委員)**

事前に資料を拝見し、これまでの活動内容を継続して取り組むような形で紹介されていて、成果のある活動ができていたのではないかなと感じています。ただ、質的にも量的にもさらに取り組みを強化していく必要があると感じました。先ほどのデータを見てもわかるように、「概ね良し」とされるのは 80.0% とよく言いますが、まだそのレベルに届いていないので、もっと力を入れていっていただければと思います。

具体的な内容としては、インセンティブを活用した誘導が重要だと考えます。例えば、活動している団体さんへの表彰制度を設ける、または講座に参加した学生に対して修了証を発行するということが一つ考えられます。少し雑駁になってしまいましたが、よろしいでしょうか。

#### **(田中充 会長)**

ありがとうございます。今ご指摘にあった表彰制度の仕組みは、区で設けていらっしゃるのでしょうか。

#### **(吉尾文彦 環境政策課長)**

団体への表彰についてですが、環境活動に取り組む団体へのピンポイントな表彰はありません。しかし、企業に対しては、再生可能エネルギーの導入を

呼びかけ、取り組んでいただいた事業者をホームページに掲載し、発信しています。

また、環境ゼミナールを受けて一定程度参加しレポートを提出された方に対しては、環境マイスターとして修了証をお渡ししています。

補足ですが、少し幅の広い制度として、「ビューティフル・パートナー」がごぞいます。こちらは、野鳥モニター、廃棄物を適切に処理されている事業所、不法投棄協力員など、一定の活動していただいた方に対して、区全体として表彰を行う制度で、先日も表彰式が開かれたところです。

**(石田好広 委員)**

ありがとうございます。マイスターの方は修了証を頂いているわけですね。

**(田中充 会長)**

ありがとうございます。他の委員からいかがでしょうか。

**(土屋のりこ 委員)**

今のインセンティブのあり方について、前回も少し過剰なインセンティブというのはいかがなものかということ発言をました。資料として机の上でいろいろと持参しました。これは、実際に私が参加したイベントのノベルティです。墨田区、江戸川区、葛飾区の環境フェアのものもあります。こうして見ると、それぞれの区のスタンスが違ってくるのがわかります。特に、足立区の A-Festa は規模が大きく、環境に関連しないものも含まれています。また、葛飾区も比較的多くのノベルティを配布して

おり、水道局は多くの会場に来ているため、水道局カードがたくさん溜まっていてしまいます。私のように子どもがいると2つもらえます。

こうした実態を踏まえた上で、評価を挟むつもりはありませんが、皆さんがこういったノベルティをどう感じるのか、実際のところをお聞きしたいと思い、イベントで配布されるノベルティに関する資料を持参させていただきました。インセンティブはきっかけとして大事だと思いますが、こうした取り組み全体を俯瞰して、こういった形でコーディネートするかも必要かと思っています。

結論としては、エコバッグやマイボトルなどがもらえることは嬉しいので、私も使わないかとも思いながらもつい受け取ってしまいます。こうしたノベルティは必要ですが、同時にデジタルなインセンティブも積極的に活用すべきです。もらえると嬉しいけれど、数日経つと不要になるものを増やさない工夫も必要です。直近でいうと、足立区の千宿 400 年記念の謎解きゲームでは、アプリを使ってクエストをクリアすることでスタンプが貯まり、ポイントが一定数貯まると応募できる仕組みがあり、達成感もあります。

そういったアプリ、ウェブサイトでデジタルバッジがもらえたり、ポイントが貯まったり、エコ活動の場合、日常生活の中でコツコツと取り組み、繰り返すことで大きなインセンティブに繋がるようなデジタルの仕組みは必要だ

と思います。

あとはインセンティブとして、足立区も様々なイベントでエコバッグの持参を呼びかけていると思いますが、実際にエコバッグを持参している人がどれくらいいるのか、また持参することでインセンティブがあるのかが重要です。例えばエコバッグを持参すると100円の割引券やチケットがもらえ、ブースでの買い物に使用できたり、具体的に環境にいい行動をすると、何か得をする仕組みを取り入れることで、参加者の行動を変えることが期待できると思います。

インセンティブのあり方に関連して、次の環境事業のあり方にも関わりますが、サステナブルイベント協議会というのがあるそうです。イベントの運営における環境改良を促進するというところで、自治体の中では、京都市が認定エコイベントという、エコイベントの認証制度を導入しているそうです。イベントの主催者に対して、配布率の設計などについてモチベーションを与える仕組みで、ノベルティ配布を抑制する取組みを行っているそうです。

足立区でも、ノベルティの配布のあり方やデジタルの取組みはどうかと思いました。

**(田中充 会長)**

ありがとうございました。多くの論点を含んだご意見でした。事務局から、今のご意見に対して何かございますか。

**(吉尾文彦 環境政策課長)**

お話しいただいた内容で、現在の取り

組みについてご紹介します。デジタルのアプリの活用についてですが、今年の10月の末まで実施していた「生き物図鑑をつくろう」という、スマホで様々な植物や動物を投稿していただき、抽選で商品をプレゼントする仕組みを年に2回行っています。これはタブレットを使った環境学習の一環です。また、10月の3R月間では、「Rのお店」として区内の70店舗に登録いただいているなかで、今年は55店舗にご協力いただき、例えばエコバッグを持参してビニールバッグを断ったお客様に、竹材の歯ブラシなどをノベルティとして差し上げました。

また、今週末に開催予定の「ぐるぐる博」では、マイバッグの持参と活用を呼びかけたり、庁内でもイベント時にはできる限りプラスチック製品の使用を避ける取組みを行っています。あだち区民まつりでは、ビニールの使用が避けられない場合は、バイオプラスチックのビニールを使用しました。以上が現在の取組み内容です。

**(田中充 会長)**

ありがとうございます。土屋委員から出された論点の一つは、ノベルティや記念品の配布についてです。これは、確かに行政のイベントや窓口でよく目にする光景ですが、効果がどれほどあるかということ。もう一つは、あまり有用性のないものが多いため、一回は使ってもその多くが最終的にごみになってしまうことです。その観点から、配布は少し控えめにした方がいいのではな

いかというご意見と思いました。

もう一つの重要な論点は、ノベルティの配布を全庁的に整理されているのかということ。俯瞰的に、また統一的な観点から有効に活用されているか、頻度や量、そしてその結果としてどのように使われているのかをチェックする必要があるのではないか、そのようなご示唆もあったかと思いました。

また、デジタルで工夫できないかということ。これはシステムの設計が必要なため、すぐに実現できるわけではありませんが、そういう事例を集めていくことも大事だと思います。

さらに、サステナブルイベント協議会に関する話がありましたが、確かにそういう情報交換の場があるとすれば、ぜひ参加し、区内のイベントに関する一種のガイドラインや目安を作ることも工夫の余地があると思います。

他にご意見があれば、発言をお願いいたします。

#### **(岡安たかし 委員)**

資料はよくまとまってわかりやすくなったと思います。さらに具体化するためには、どうすればよいかという点を今、話し合っている段階かもしれません。先ほど出たインセンティブについて、例えば1ページの「ごみ拾い大会」のようなイベントにはインセンティブを加える。「ボランティアでごみ拾いしましょう、いいことですよ。」と呼びかけるだけでは、区民の皆様はそれだけでは参加しにくい方が多いでしょうから、何かしらのインセンティブをつけ

ることが大事だと思います。ただ、物に関しては土屋委員が指摘されたとおり、吟味が必要です。会長もおっしゃったとおり、2、3回使ってごみになってしなうようでは意味がありません。私もビッグサイトで開催される環境展に何回も行かせてもらって、多くの業種業態の企業や自治体がさまざまなノベルティ配っており、多くの物をもたらってきますが、やはり半分以上使いません。エコバッグもたくさんもらいますが、10枚もらって使うのは2、3枚だけで、あとは形や色が変わったり、もらってくる先もなく使わないままだったりします。やはりこういうインセンティブというのは、物で配るのか、ポイントを付与するのか、しっかり吟味しないといけないと思います。

1 ページ右側の2番「見える化」は大事です。特に小中学生、もっと言えば高校生くらいまでに、環境の大切さや、放置したらどうになってしまうのかという「見える化」を、もっとしないといけないと思います。学校の授業では大変でしょうから、行政であるいは民間と連携しながら、どこまでできるかが課題だと思います。

若い人に環境の大切さをどう伝えるかですが、グレタさんのように世界的に活躍する人が現れる必要はないと思いますが、足立区内で「あの中学校は、あの小学生はすごい」といった子が出てくれば、それはまたすごいことなのかなど。そこまでの意識を家庭や学校、地域、行政で持たせられるかも一つの

鍵だと思っています。

先日、高校生と話した際、ぐにゃぐにゃと曲げられる太陽光電池、ペロブスカイト太陽電池について話をしたら、知らないと言われました。10年以上前に登山家の野口健さんの講演を聞いたとき「今、こういうものがあり、数年後には世界で使われるようになるんですよ。」という話をされていました。野口さんはエベレスト登山に太陽光電池を巻いて持って行き、それを登山中に使用したそうです。まるで洋服みたいな太陽電池だなと思って見ていたのですが、そういうものを知る機会が高校生でもないんだなと思いました。環境についての知識が身につく機会がまだまだ少ないと感じています。高校生の場合、大学受験や部活でも忙しく、環境のことばかりに時間を割くのは難しいでしょうけれど、それでも先進的な技術の話やツバルの海面上昇で沈みつつある現状など、いろんなことを学ばせてあげたいなと思いました。

環境マイスターは150人いらっしゃるとのことですが、シニアの方が多いそうですね。今後、環境マイスターの活躍の場をもっと増やすことも大切だと思います。また、シニアの方が多いのであれば、今度は次世代への世代交代を図って、若い人が増えるようジュニアマイスターのような、資格ではないけれど4級、3級、2級と段階が上がるごとに表彰されたり、メダルがもらえたり、そういう仕組みもいいのではないかと思います。

また、外国人に関しては、打ち出しが弱いと感じます。2ページの2-1の③、3ページの意見等の4番「イ」にも触れられていますが、「地域コミュニティリーダーへの啓発」をしっかりと進めていただきたいと思います。外国人のコミュニティもリーダーがいるはずです。そうでないと、先日の国際まつりのようなイベントもできないと思うので、そのような方に集まっていただいて、ごみの出し方などについて再度徹底していただく。一度は徹底されていると思いますが、国によっては文化が守られにくいことも多いと見聞きしています。そのあたりの周知もしっかり進めてください。すみません、まとまりがなくなりましたが、よろしくお願ひします。

#### **(田中充 会長)**

多岐にわたってご指摘いただきました。まだまだ工夫が必要あるいは大変なことがあると感じました。先ほどの石田委員からもありました表彰制度についても、環境に特化せず、SDGs活動やビューティフル・パートナー制度の中に環境部門を設けるなどして、良い活動をした団体や個人、あるいは日々美化活動している方々を表彰し、それを励みにしていただくとよいかと思います。また、他の皆さんにもその様な活動を倣っていただく機会を作ることが大事かと思います。

#### **(水川薫子 委員)**

今回気になったのは、1-(2)「これまで環境への意識が低かった層を巻き

込む仕組み」で、前回の意見等を挙げていただけていますが、今回の報告資料にある(5)や(6)の「自然環境を大切にすることを心がけている区民の割合」、「日頃から環境への影響を考慮して具体的に行動していると答えた区民の割合」という指標が目標に達していない現状を見ると、行動していないのではなく、できない理由があるのではないかと感じました。環境への意識が低かった層を巻き込むためには、その「できない理由」を掘り下げていくことが重要だと思います。

もちろん、いろんな活動をしている人を表彰したり、そのような活動を紹介することは大切です。しかし、そういう人の声ばかりが前に出ると、やりたいと思っているけれど実際にはできていない人が後ろめたい気持ちになったり、遠ざかってしまう可能性があります。「そのようにはなれないな」と思わせないための工夫も必要だと感じました。ただ、具体的にどのような対策をするべきか、今すぐには思い浮かびません。

**(田中充 会長)**

2ページ目の「これまで環境意識は低かった層を巻き込む」についてですね。そういう層に対して、どう戦略的にアプローチしていくかが重要になるかと思っています。

石田先生、これまでの議論の中で追加のご発言ありますでしょうか。

**(石田好広 委員)**

ありがとうございます。グレタさん

のお話が出ていましたが、まさにグレタさんのような若者が育つ仕組みを作る必要があると思います。そのためには、若者が区に対して提案できる仕組みづくりが必要だと感じます。例えば中野区では、小学生や中学生が区長に向けて提案をする制度があり、1年に1つぐらい実際に提案を具現化する取り組みを行っているようです。こうした取り組みは、子どもたちの参画意識を高め、人材育成につながると思います。

質問ですが、環境マイスターの活用がいまひとつであるという点について、現状、その理由をどのように分析されているのかお聞きしたいと思います。2点よろしくお願いします。

**(田中充 会長)**

2点ご指摘を頂きました。若者が区や区長に提案できる仕組みがあるか、そして環境マイスターの活用ができていない要因や背景について、事務局いかがでしょうか。

**(吉尾文彦 環境政策課長)**

若者が区に提案できる仕組みとして、区内大学にはなりますが、大学の中で提言をまとめて発表する際に、区長がお話を伺う機会を設けています。また、区長は区が関与する様々な事業の際に、区への要望があるかを必ず尋ねているように思います。

先ほどのジュニアマイスターに関連するお話ですが、マイスターの活用がいまひとつである理由として、コロナ禍で活動が一度分断され、停止してしまったことが挙げられます。今年度、区

民まつりでは「マイスターブース」を出展しましたが、この準備会でも大変盛り上がり、活発な議論が行われました。その中で、マイスターの方々から「子ども版マイスター」を作ったらというアイデアも出ましたので、今後はマイスターの方々とともに議論を重ね、進めていきたいと考えています。

マイスターの活用がいまひとつである背景には、やはりコロナ禍が大きな影響を与えたと思います。しかし、コロナ禍でも、例えば1月に開催する環境かるた大会では、マイスターにも協力いただいています。昨日振り返り会がありましたが、マイスターの方々からは、今後も活発に活動していきたいという意見をいただきました。以上です。

#### **(石田好広 委員)**

ありがとうございます。私は東京都の環境局で環境学習リーダー養成講座の事務局をしていた経験があります。その講座では、最終段階になると、実際に学校現場に教えに行き、指導法についても学ぶ機会を設けていました。環境に関する知識や経験を持つ方でも、実際にそれを発信し説明する段階では、別のスキルが必要になります。そういった部分の研修も積ませてあげられれば、活動に広がりが出るのではないかと思います。以上です。

#### **(田中充 会長)**

ありがとうございます。マイスターのフォローアップ研修や、スピーチ、コミュニケーションなど、伝えるスキルも大事だというご指摘ですね。

最初にご発言いただいた土屋委員、いかがでしょうか。

#### **(土屋のりこ 委員)**

啓発事業、イベントについて、前回も環境フェアのようなものが必要だという意見を述べました。現在も環境かるたや A-Festa など様々な取組みをされていますが、そういった取組みを持ち寄る1年間の総まとめのようなイメージの、環境課題をメインテーマに据えたイベントが、年に1回必要ではないかと思います。日常生活の中で取り組んでいることもあると思うので、エコフォトコンテストを行い、普段のものをそこに持ち寄ってショーをやったり、ノベルティ交換会を開催したり、子どもたちが日頃の学びの成果を発表し、参加者と知識を共有したり、地産地消をテーマにした地元野菜のキッチンカーがあったり、ごみ分別をテーマにしたリアル謎解きをやったり、各家庭のチョイエコ宣言をボードに貼って交流ができたり、いわゆるローカルフェスみたいなイメージです。

墨田区や江戸川区の環境フェアは真面目で硬派な印象がありましたが、これまでのスタイルではなく、ローカルフェスの環境版のようなイベントです。食べものや音楽を楽しめつつ、音楽はうるさすぎないように配慮する必要があります。その中に、最先端の環境テーマに関する講演を一つ入れるという形で位置づけてはどうかと思います。

足立グリーンフェスのようなイベントをイメージしていますが、可能であ

れば若者が実行委員会に参加し、一緒に企画を練ったり、中学校、高校のバンドが出演したりする。そうすると子どもたちや若者が集まり、親世代も集まるということにもなりますし、そういったものが一つあった方が、足立区が環境に取り組んでいるという印象を与えることができるのでいいのではないかと、というのが一つです。

もう一つは、環境汚染の問題が環境問題の原点ではないかと述べましたが、その環境汚染問題に切り込むような事業も必要ではないかと思えます。前回、他の委員が提案された荒川への稚魚の放流は、目の前の生き物の命を守るために、私が何をしたらいいのかを考えられるという観点から良いと思えました。魚の子どもが足立区の川に放流されて生きていけるだろうか、川が汚染されないため、しないために自分は何をしたらいいだろうか、ごみを捨てない、不必要なものは買わない、プラスチックのごみを削減する、できることはいろいろあると思えます。ただし、生態系への影響もあるので、具体化できるかどうかはわかりません。ミニトマトの苗やミニヒマワリの種を育てることは、実施中の事業だと思えますが、目の前の命が育っていくのかどうか、命を守るために私は何ができるのか、環境を捉え返す機会にもなるので、併せてやっていくこともいいと思えました。

3点目は若者向けの施策とも重なりますが、区内の自然を感じられる企画です。2-2の③で「自然・生物の学び」

とありますが、環境プラザでは様々な授業が行われていて、河川敷の環境ビンゴをやっています。紙に9つのマスがあり、草や鳥、花を見つけてコンプリートしたら提出します。100人も参加していないと思われましたが、参加するとランタンがもらえるなどして驚きました。せっかく実施している事業なので、河川敷の環境ビンゴに限らず、舎人公園や東綾瀬公園、中川公園など緑が豊かな場所で、リアル緑の謎解きや生物ビンゴもいいと思います。子どもとその親の若い世代が広く参加できるような企画を実施してはどうかと思いました。以上です。

#### (田中充 会長)

具体的なアイデアも含めてご提案いただきました。最初のお話は、フェアやこれまで区で行われている活動、イベントについて、もう少しメニューを増やしたり、区民の皆さんの日常に密着したローカルな活動を紹介したり、共有できる工夫がもっとできるのではないかと話と受け止めました。是非、取り入れられるところは取り入れていければというところです。

それから汚染の問題を学ぶ重要性についてご意見がありました。最近ではPFASなどの水道水に含まれる化学物質や、依然として新しい化学物質に関する問題が注目されています。それらが広がり、様々な大企業が関わる中で、新たな汚染問題が生じており、生態系に及ぼす影響が懸念されています。このような問題については、産学官が連携

し、しっかりと情報を皆さんにお伝えし続けることが重要と感じています。

何か追加でご発言があればお願いします。

**(岡安たかし 委員)**

例えば、東京 23 区内で大々的に行われているイベントや、江東 6 区のサッカー大会、江戸川区、葛飾区、足立区などで開催されている大会などがありますが、環境のフェアのようなものを他区と合同で開催する動きがあった例はあるのでしょうか。様々な難しさから実現しなかった例など、そのあたりについてお聞きしたいです。

**(吉尾文彦 環境政策課長)**

他区と連携した大規模な環境イベントは、私の知る限りでは実施されておられません。それぞれの区で行っていることが異なるため、連携が難しいという側面もあると思います。

現在、特別区の課長会にも参加しており、大規模に実施しているところもあれば、小規模な企画を多く実施しているところもあります。足立区でもかつて環境フェアを実施していましたが、近年は区の 5 大イベントに出展し、そのおかげで多くの方々が参加してくれたという実績もあります。

**(田中充 会長)**

委員がおっしゃるように、他の区でも苦労しながら実施しているのではないかと思います。共通の課題として、区民の意識や行動を変えることが重要なポイントであり、特に地域行政として大事な部分ですね。そのため、課長会な

どの中で一度、環境フェアのあり方、環境意識の向上施策についての研究会を立ち上げ、他区の状況を共有し、学びあう仕組みを検討されてはいかがでしょうか。

また、土屋委員のご発言にもあったように、環境フェアのあり方には工夫の余地があると思います。環境フェアは区の予算で実施するため、区の職員が関わって行うと思います。現在は実行委員会形式になっているのでしょうか。

**(吉尾文彦 環境政策課長)**

かつては実行委員会形式で実施していたと聞いていますが、コロナ禍で終了しました。また、環境フェアとして実施していたものの、そこでごみが出るなどのジレンマもあったという話です。さらに、環境フェアというと、環境に興味がある人を中心としたイベントになってしまい、裾野を広げることが大きな課題だったという点もあります。コロナ禍が明けた今、どうするかというところで、観光交流協会が行う 5 大祭りといわれる、しょうぶまつり、千本桜まつり、区民まつりに環境部として出展しています。特に区民まつりでは、本年度から大きな門を構えた広いブースを設け、様々な民間団体や企業、清掃一部事務組合、行政機関などが関わり、前年よりも 5,000 人ほど来場者が増えたという実績があります。

**(田中充 会長)**

確かにお話を伺うと、いろいろなお祭りが既にあり、これ以上新たな祭り

を作るのは大変だと思います。区民まつりやしょうぶまつりなど、既存のお祭りの中に、環境のコーナーや出展スペースを設けて、区民を巻き込んでいく方法はあると思います。また、環境フェアという名前で実施するイベントを、環境に特化せず、SDGs や暮らしのフェアなど、いろんな言い方があると思いますが、環境も含めた「暮らしのあり方を見直せる」きっかけ作りにできるといいなと思います。ただし、行政の予算で実施する場合は、行政あるいは議会のチェックがあるため、その目的を明確にし、プログラムが適切であることを示す必要があります。漠然とした目的でお金を使わず、きちんとした目的意識を持って有効に執行することが求められます。このようなチェック体制は重要ですが、一方で目的が明確化されると、その範囲が狭まり、広がりがなくなってしまうというデメリットもあります。これを調和させることが大切です。また、区の予算を使う以上、区が責任を持つべきですが、その反面、区民の発意や活動、区民から出されたアイデアを活用したい側面もあり、これらを統合的に実施できると良いと思っています。

はい、どうでしょうか。

**(土屋のりこ 委員)**

課長のご意見にあったように、イベントが大きなものに集約化することで効率が図られているということだと思います。例えば、私の子どもが3歳ですが、去年、2歳や1歳の子供を連れて

A-Festa に行くのは非常に困難でした。自転車で行くにしても人が多く、車で行こうと思ったら、周りの駐車場は満杯で、遠くに止めるしかありませんでした。集約することで人が集まりすぎると、参加者にとっては負担になる側面もあります。例えば、3歳の子がかき氷を食べた後、トイレに行きたいと思っても長蛇の列で、間に合わなかったりしました。そういうところで、A-Festa には行きたくないという気持ちにもなってしまう。仕事柄、参加しないと意見が言いづらいため行きますが、純粋に子供たちが楽しめるのかなと疑問に思うこともあります。さらに、A-Festa に合わせて図書館や地域学習センター、生涯学習センターでもイベントがあり、ダブルで人だらけで、自転車も停められない、トイレも行けない、物を食べるにも長蛇の列で、参加する側としてはしんどいところもあります。そういった区民の声も受け止めていただければと思います。これをどこかで言いたいなと思っていました。

**(田中充 会長)**

難しいですね。多くの区民の皆さんが集まってくれるのは嬉しいことですが、集まることによるデメリットもあるというご指摘ですね。

**(吉尾文彦 環境政策課長)**

そういった大規模なイベントの他に、単発の講座も実施しています。環境情報プラザの出前講座は年間80回実施しており、気候変動に合わせた講座なども行っています。今年は地域のイベン

トとして河川敷で自然体験を実施し、1,200 人も参加があるなど、環境に特化したイベントや講座も増やしている状況です。

**(田中充 会長)**

私も全ての区を見ているわけではありませんが、区の委員として伺っており、他区でも区民参加、あるいは区民を中心にしたイベントなどが頻繁に行われていることを聞いており、それぞれの区の担当職員は工夫されていると思います。ですから、東京 23 区の実態として、どのくらいの水準が標準的なのか、足立区はどの水準で活動しているのかを、一度チェックされるといいかもしれません。その上で、次の発展段階として、合同でイベントを行うという選択肢もあるかもしれません。

**(吉尾文彦 環境政策課長)**

特別区の課長会で、そのような調査や、他区の課長との連携を通じて状況をよく把握してまいりたいと思います。

**(田中充 会長)**

石田先生は 2 時 55 分頃にご退出される予定ですので、後段の子ども・若者の意識啓発について、特に気をつけた方がいい点や、資料にまとめられた内容について、コメントがあればお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

**(石田好広 委員)**

大学生の参加を促す企画は必要だと思います。先ほどお話を伺うと、大学生の意見を聞く機会があるとのことですので、そうした取り組みをもっと積極的に進めていけばいいと思います。私は

区内の大学ではありませんが、足立区には多くの大学があるので、大学の力を借りて大学生や先生方を巻き込むような取り組みを検討してみたいでしょうか。最後にもう少し発言させていただきますが、先日、校長をしていた時の学校の周年行事で小学校に行った際、地域の方々の力の大きさを改めて感じました。ですので、町会や地域の方々を巻き込んだ環境イベントを積極的に展開していくことが重要だと感じました。以上です。

**(田中充 会長)**

ありがとうございます。大学生を巻き込む仕組みですね。先ほどご紹介いただいた大学生からの意見・提案を聞く機会は、区ではどのような目的や形式で行われているのでしょうか。また、どのような分野で行われていますか。

**(吉尾文彦 環境政策課長)**

若者からの提案は、環境に特化したものではありません。ただし、環境部でも環境基金助成の中に「ecoU-30」という枠を昨年から設け、大学生、中学生、高校生からも提案してもらえる仕組みを設けています。

**(田中充 会長)**

大学生の提案制度というのは、環境に限らないということですね。

**(吉尾文彦 環境政策課長)**

限りません。

**(田中充 会長)**

年に 1 度、テーマを決めて、それに基づいたものを募集するといった仕組みで行われているのでしょうか。

**(吉尾文彦 環境政策課長)**

詳細については担当外のため分かりかねますが、大学内での研究活動の発表というふうには聞き及んでいます。

**(田中充 会長)**

石田委員からご提案がありました、他の論点でも結構ですので、ご意見はいかがでしょう。

**(水川薫子 委員)**

石田先生に質問です。先ほど地域の人の力が強いと実感されたとおっしゃっていましたが、具体的にどのような点に魅力を感じられたのでしょうか。

**(石田好広 委員)**

周年行事では、それぞれの学校の特色を生かして行事を行います。そこでは非常にたくさんの参加者がいて、行事を盛り上げていました。地域の方の力は本当にすごいと改めて実感しました。例えば、町会など積極的に行われている夏のイベントなどに、環境的な要素を盛り込んでもらって参加者を募るといった形はどうかと思いました。地域の方が運営することで、地域に住んでいる小さなお子さんと一緒に参加できるイベントが組め、広がりのある活動が期待できるのではないかと感じているところです。

**(水川薫子 委員)**

この地域の活動にマイスターの方々が関わると、うまく噛み合うのかなと思って聞いておりました。ありがとうございます。

**(田中充 会長)**

小学生や中学生向けの自然体験講座

は熱心には実施されており、友好都市へのバスツアーも組まれていて、区に応募が殺到するほど人気がありますね。他の区でも同様の取組みはあると思いますが、足立区は非常に熱心な印象を持っています。他の区の取組み状況把握していただくと、参考になると思います。

また、ショート動画やタブレット、新しいメディア活用することが今注目されていますが、これを区の職員が自ら作成するのは難しいのではないのでしょうか。

**(早川亮 足立清掃事務所長)**

令和8年度からのプラスチックの全区での回収に向けて、ショート動画を作成しました。編集作業は事業者へ委託しましたが、出演については区内のNPOが運営する小学生中心の劇団にボランティアをお願いし、参加していただきました。区の動画には、過去に区の職員が自分のスマホを使って手作りで制作したものもありますが、今回はより多くの方に見ていただきたいという観点から、外部委託をしました。

**(田中充 会長)**

そういう専門的なスキルを持った事業者さんに依頼されたのですか。

**(早川亮 足立清掃事務所長)**

はい。今回依頼したところは、行政広報を多く作っている事業者さんです。

**(吉尾文彦 環境政策課長)**

生活環境保全課で作成した、ごみ屋敷対策の動画は区が自前で作成しています。また、区単独ではなく連携してい

る事例もあります。家庭で出た廃食油の回収を周知啓発するための VR の動画は、お祭りなどで使用し、子ども達に大人気です。そのショート動画は協定先の事業者と連携して活用しています。

**(土屋のりこ 委員)**

SNS を活用して、10 代や 20 代に響く仕組みやアイデアということで、共感拡散型のものを行ってはどうかと思えます。例えば「#マイボトルチャレンジ」や「#リサイクルコーデ」のように、ハッシュタグを付けて、1 日マイボトルで暮らしますとか、リサイクルコーデにチャレンジしている様子を投稿するなどです。足立区で実現できるかわかりませんが、例えばギネス記録にチャレンジするとか。まちぐるみで、期間中にそういうハッシュタグをつけた投稿を呼び掛け、環境をテーマにしたリサイクルコーデ、マイボトルチャレンジ、リメイクチャレンジを呼び掛けます。足立区ではどういう単位がいいかわかりませんが、例えば、「足立区まちチャレンジ」として、区全体で一日だけエコ活動を SNS に投稿し合うイベントを実施し、その中で最も多く投稿した地域を競い合うという形でも盛り上がると思えます。

**(田中充 会長)**

職員が仕事で SNS に投稿することについて、何か基準やガイドラインというのはあるんですか。

**(早川亮 足立清掃事務所長)**

SNS 投稿のガイドラインはございません。投稿自体は Facebook や X など

極的に行っておりますが、ハッシュタグキャンペーンなどは実施していない状況です。

**(田中充 会長)**

若い人は、皆そのようなものを使うのでしょうか。

**(土屋のりこ 委員)**

検索するとたくさん出てきますし、反応があり、否定ではなく「いいね」で肯定してもらえると嬉しくなって、人とつながっている感覚も得られるので、私自身も匿名のアカウントでやっていますが、面白いと思えます。成功するかどうかドキドキですが。

**(山岸覚 生活環境保全課長)**

先ほどごみ屋敷対策に関する動画を作っているという話がありましたが、実際、私たちも足立区の X にごみ屋敷の動画を投稿しています。しかし、予想に反して反応は少ないんですよ。一方で、私たちが何気なく投稿している写真には非常に多くの反応があり、その違いが面白いと感じています。土屋委員の話にもありましたが、こちらの思惑どおりに反応が返ってくるわけではなく、だからこそ SNS は試行錯誤が必要だと思います。私たちも継続して、あの手この手で投稿し、反応がよいものを拾いながら、また新しく発信していく、そのサイクルが大事ではないかなと考えています。ショート動画を作ったからといって、必ずしも皆さんに響くわけではなく、工夫をしながら発信していくことが大事かと思えます。

**(田中充 会長)**

私自身は SNS を積極的に利用していないため、話を伺うことも多いのですが、ちょうど1年ほど前、県知事選挙の際に、当時の県会議員が SNS 上で攻撃を受け、その結果として自殺されてしまうという非常に悲しい出来事がありました。SNS 上での攻撃がどれほどのプレッシャーをかけるか、私自身は実感が湧かなかったのですが、その事件を通じて、SNS には強い影響力があり、巨大な力が働いていることを改めて感じました。このような力を持つ SNS を、行政としてどう向き合うか、また広報や情報発信の手段としてどう活用するかは非常に難しい問題だと思います。語弊があるといけません、政治の場では、自分たちの主張を通すために SNS を活用し、自分たちの主張を広めて巻き込むことがよくあります。その際、論証していく、打てば響くような、こだまのようなものが返ってくる。そういう世界を活用してくるということが十分あると思っていて、特に政治家ではそういうことがあります。それが大きな流れになってくるということが、確かに今回もありました。

ただ、行政はそのように過激に主張をするわけにはいきません。むしろ、中立的でニュートラルで、客観的なデータをきちんと伝えなければなりません。そういうある種のルール、規範があります。そのような中で、SNS とどう付き合うか、どのように活用できるかは非常に難しい問題だと感じました。

他にご意見はありますか。石田委員、ご退席される前に、一言ございましたらお願いします。

**(石田好広 委員)**

途中で退室となり申し訳ありません。私からは特にございません。ありがとうございました。

**(田中充 会長)**

わかりました。ありがとうございました。

**(吉尾文彦 環境政策課長)**

SNS ではありませんが、区の動きとして若者会議があります。この部会の前の7月に若者会議を行いましたので、ご報告させていただきます。

**(田中充 会長)**

わかりました。先ほど途中までお話ししたことの続きですが、私は人の行動を変えるためには、SNS も重要ですが、特に自然体験などのリアルな体験、つまりバーチャルではなく、本物を見たときの感動や感触、あるいはその肌触り、そのときの暑さ寒さといった体験が、やはり心に刻まれると思います。それは短期的な行動にとどまる場合もありますが、むしろ自分の中に入りこみ、長期間にわたり残っていきます。SNS は情報や感情の世界で、短期的に怒りが爆発したり、瞬時に伝えられることがありますが、長期的にその人の行動を変える意味では、体験を重視した方が効果的だと思います。そのような持論とつながっているので、先ほどの話をさせていただきました。ですから、この自然体験などの体験の機会を、ぜひ重

視していただければと思います。

**(岡安たかし 委員)**

私も会長の意見に賛成です。手前みそになりますが、40年ほど前、私の大先輩の議員が、綾瀬川が日本一汚いと言われていた時代に、「空心菜を植えよう」と綾瀬エリアの区民の皆さんに呼びかけて、100人ほどに参加していただき、数ヶ月間にわたって行われたイベントがあったそうです。そのイベント自体が直接的に綾瀬川をきれいにしたわけではなく、行政、特に東京都や足立区、他市の力も大きかったと思いますが、今ではとても綺麗になりました。私が議員になり、綾瀬エリアを担当しているものですから、挨拶で歩くと、「あなたの先輩の何とか議員さんの時に私は若くてね、あの時やったのが楽しかった。」という人が結構います。行ったことの意義ではなく、参加して一緒にやった楽しさを、すごく覚えているんですね。皆さん、「あのとき楽しかった。」と話されます。何人もそういうお声を聞きました。会長が言われるとおり、体験の力は大きいです。ゲームなどは、1年、2年で忘れがちですが、体で覚えたことや皆でワイワイ楽しんだことは、大人になっても覚えているものだと思います。それが、お母さんやお父さんから子どもに「こういうイベントあるみたいだから行きなよ、楽しいよ。」と実感を込めて語れるのではないのでしょうか。私も、もっと多くのイベントを作って、定員30人程度と限られますが、より多くの子どもたちを巻き込むことが

できればいいと思います。忙しさや費用など、条件はあるかもしれませんが、できる範囲でもっと多くのイベントを開催していただければと思います。これ要望です。よろしくお願いします。

**(田中充 会長)**

ありがとうございます。

**(水川薫子 委員)**

自然体験の機会について、区が実施している観察会などは大変人気で応募が多い一方で、定員の制限があり、職員に負担がかかっているという話があったと記憶しています。ですので、やはり町内会などの小さいローカルなイベントにマイスターをつなげるなど、職員の方の負担がない規模で、体験する機会を増やす方法が良いのではないかと考えています。

**(田中充 会長)**

そういう環境に関する NPO のようなものが、区内にはあるのでしょうか。

**(吉尾文彦 環境政策課長)**

環境に関する NPO は存在しますが、森林環境の保全を目指すといったものが多いです。町会に関しては、ごみ拾いなどを行っている町会には、区が支援をしています。マイスターの方が実際に町会に入って活動されている例も聞いているので、今後お話を聞いて、何ができるか考えていきたいと思っています。

**(水川薫子 委員)**

そういう経緯を共有できると、他の地域でもやってみようか、というきっかけに繋がると思います。

**(土屋のりこ 委員)**

私も自然体験は大事だと思います。登山をすることで、ブロッケン現象や朝焼けの山肌を見て、言葉にできない感動があるなど、そうした体験もぜひ位置づけて充実させていただきたいと思います。また、ハッシュタグキャンペーンについては、今の若い世代が共感体験、つながりや自己表現を大切にす傾向があるので、例えば、大分県では「朝シャキーンインスタプレゼントキャンペーン」という事例があります。「朝ごはん食べたら、シャキーンとするよ」という写真を撮って投稿してもらうことを行政の中でも一部取り組まれているそうです。観光事業などでは、ハッシュタグを付けるフォトコンテストの実施が多いかと思いますが、注意点を留意しつつ、成功事例を参考にしながら、若者自身が発信者となる情報発信の仕組みの検討に関して、町会でごみ拾いしている、というのであれば、「#何とか町会ごみ拾いキャンペーン」のような、「こんなごみ拾えたよ」だったり、みんなで頑張った後という様子を投稿する、ハッシュタグキャンペーンのようなものもいいのではないかと、聞いていて思ったので、付け加えます。

**(田中充 会長)**

ハッシュタグキャンペーン、SNSの活用、また最初にご紹介のあったノベルティや配布物に関して、横断的に考える必要があります。ノベルティの配布やハッシュタグキャンペーンなどは、一定の枠はあるにしても、それぞれの

担当部署が工夫しやってください、という形になっていると思いますが、そのスキルや情報、仕掛けの持ち方は、広報部門などの戦略的に考える部署がきちんと枠組みを持った上で、その中で環境のキャンペーンを活用できるかを相談していくなど、全体を横ぐしで見える部署と、個々で取り組む部署とが、うまくかみ合う、縦系と横系がかみ合うような、庁内の仕組みも必要だと思いました。広報がこれだけ大事であると言われながら、個々の広報は現場に任されている現状を、もう少し変えるべきではないかという意味です。

**(吉尾文彦 環境政策課長)**

足立区にはシティプロモーション課があり、庁内に横ぐしを刺して発信していく、広報をしていくことが仕事です。一年ほど前、そこがハッシュタグを付けたフォトキャンペーンを実施していました。環境に特化したものではなかったもので、そこと連携して進められればと思います。

令和4年に、おそらく環境部でも実施しました。コロナ禍ということもあり、リアルなイベントの発信ができなかったためと認識していますが、そういったノウハウもあると思います。

**(田中充 会長)**

ありがとうございました。いろいろなご意見を幅広く頂戴しました。全体に渡って、あるいは追加でご意見がありましたらお伺いします。今後、これらのアイデアを含めて次期計画案に盛り込んでいただくことになるかと思いま

すが、アイデアが豊富に出了したので、整理をする必要があります。事業レベルの話と施策として何をするか、優先順位を付けたり、体系化したり、位置づけを明確にしたりする、そういう作業が必要になってきますので、必ずしも今日頂いたご意見を全て計画に盛り込むことは難しいかもしれませんが、できるだけ活用できる形で計画や事業レベルで繁榮させていただくような整理になるのではないかと思います。皆さんの方から、何か追加でご発言ありましたら、お願いします。

**(岡安たかし 委員)**

報告事項の3ページ、(5)、(6)の指標が全く目標に届いていない状況です。2025年度以降に大きく目標を下げることはないと思いますが、例えば(5)は右肩上がりですが、この上がり幅では40.0%には遠いですね。(6)においては横ばいに近いので、実績がぐっと上がらない限り、80.0%には達しないと思います。どういうことを本当にやるべきかが重要です。こういう場で真剣に議論し、必殺技を繰り出さないと、目標を下げない限り、達成できませんでしたという状況が続いてしまうと思います。私自身は、(5)の「自然環境を大切にすることを心がけている」、(6)の「日頃から環境への影響を考慮して具体的に行動している」について問われると、やっているか、やっていないかに疑問があります。何をどうしたらいいのかわかっていない人が多いのではないかと思います。「環境への影響を

考えて具体的に行動する」には、シンプルに「あなたはこういうことやればいいですよ。」ということ、例えば会社の上司から言われるように誰かからバシッとと言われる。やはりそういう「見える化」ではないけれども、「この食品は塩分がこれだけあるから、あなたはこれだめですよ。」とか「これは糖質が多いですよ。」というのと同じように、「こういう行動をもっとやりましょう。」といった目標を設けてやっていくとか、区民が気軽に、わかりやすく、「これはこういうふうにやったほうがいいんだ、今月こういうふうにしよう」と行動変容につながる発信が大事だと思います。発信方法はいろんなものがあるので、まずは何やったらいいのかと、それが具体的にどういう影響に繋がるのかがわかる、そういう発信をもっとやっていただければ、区民の皆さんもわかりやすく、こういう問いにも、「俺やっているよ、私やっているよ。」と答えられるのではないかと思いますので、ぜひ、よろしくをお願いします。

**(田中充 会長)**

そうですね。具体的な行動が見えないと、質問されてもなかなか答えにくい状況ですね。他にいかがでしょうか。

多様なご意見が出たため、まとめは難しいかと思いますが、今度は計画に落とし込む作業が入りますので、体系化や優先順位をつけて、できること、できないこと、予算が必要なもの、必要なものなどを整理し、まとめていただきたいと思っています。

それでは、次回は全体審議会で審議する流れになっています。最後に、次第の「その他」として、今後の進め方や次回についてご説明をお願いいたします。

**(吉尾文彦 環境政策課長)**

次回からは通常的环境審議会の形に戻ります。各部会でとりまとめた内容を全体で共有するとともに、環境基本計画の指標等についてご審議いただく予定です。

次回は、来年2月9日月曜日の午後2時から、8階の庁議室で開催予定です。後日、改めて開催通知でご案内いたします。事務局からは以上です。

**(田中充 会長)**

次回は、来年の2月9日です。

それでは、以上を持ちまして、第2回意識啓発・行動変容専門部会を閉会させていただきます。皆様ありがとうございました。

(会議録署名)

令和7年度環境審議会専門部会 会議録記録署名員  
(令和7年11月28日 開催)

会 長	田中 礼
署名委員	土屋 a112
署名委員	